

1,ヨーロッパ世界の変容

┌西欧勢力のアジア・アメリカ進出

└西欧内部の変動

①イタリア商人による地中海交易→( )1交易・インド洋交易

→┌( )2・アントワープなど大西洋沿岸部が国際商業の中心へ⇒商業革命

└地中海諸都市、南ドイツ諸都市の衰退

②アメリカ大陸から大量の( )3→物価騰貴=価格革命→『繁栄の16世紀』

→┌農村への貨幣経済の浸透・農民の自立

└貨幣価値の下落・領主層に打撃 →封建制の崩壊

③ネーデルラント、イギリス、フランス→経済先進地域化

→┌東部ドイツ(プロイセン)、ポーランドは穀物・原材料供給地化 →工業化・市民の成長が遅れる

└( )4川以東→直営地拡大・農民の土地に縛りつけ⇒農場領主制(グーツヘルシャフト)❖a

❖a---地主貴族=( )5により自由農民は農奴化。「再版農奴制」とも。

2,東南アジアの活況

1511年 マラッカ王国(14世紀末~1511)を[ ]6が征服→香辛料交易の独占を目指す

→┌マラッカ王家はマラッカ海峡沿いの島=ビンタン島=に拠点を移す

└ムスリム商人はインド洋~スマトラ島西海岸から( )7海峡を経てジャワ海へ

スマトラ島・ジャワ島のイスラム王国(16世紀~)

┌( )8王国❖b(16世紀~1904)=スマトラ北端。首都パンダ=アチェ

└( )9王国(1528~1718)=マレー半島南端。マラッカの後裔。首都ジョホール、ビンタン。

└マカッサル(1300~1911)=南スラウェシのイスラム王国。東インドネシア貿易の中心。

❖b---オスマン帝国と直接交易。東南アジアイスラムの中心。17世紀最盛期。オランダとのアチェ戦争(1873~1912)に敗れる。インドネシア独立後、自治権を持つ特別州。

┌( )10王国(1525~1813)=ジャワ島西部。交易及びイスラム布教の中心。胡椒生産。

└新( )11王国❖c(1582~1755)=ジャワ島中部。

❖c---1755年ジョグ・ジャカルタとスラカルタの王家に、さらにその後4つの王家に分割しオランダの「保護領」となる。

16世紀後半 多数の中国商人の来航←明の海禁政策が緩む ⇒東南アジア交易の活況

[内陸部]

ビルマ ( )朝12(1531~1752)---トゥングー(一時ペグー)を都として全国再統一

┌東南アジア内陸部~ベンガル湾を結ぶ交易で繁栄

└バイナウン王(位1551~81)、アユタヤ王国を攻略(1569年)⇒ビルマの属国化

1594年 アユタヤ王国がビルマに侵攻するが、1597年トゥングー朝再興。

タイ

16世紀末 21代ナレースワン大王(位1590~1605)❖dにより( )13王国(1351~1767)再独立

❖d---救国の英雄。スコタイのラムカムヘーン(位1279~99)、ラタナコーシンのチャラロンコン(位1868~1910)とともにタイ3大王。50バーツ紙幣の肖像画。タイ国技[ ]の創始者。

ヴェトナム 黎朝( )14国(1428~1527,1532~1789)

16世紀中ごろ分裂→┌北部海陽出身の武人による莫朝(1527~1592~地方政権化~1677) ハノイ中心

└旧臣の( )15氏が擁立する黎朝との対立

16世紀末┌黎朝の有力者・北部トンキン=東京=の鄭氏がハノイを攻略し大越国再建(1592)

└阮氏=広南阮氏=は中部フエで( )16=カンナム=王国(1570~1770)建国

→ポルトガル・オランダ・朱印船と通商

3,南シナ海・東シナ海交易の活況

ポルトガルの参入---( )17銀・( )18銀の大量供給 ⇒交易圏拡大

日本

16世紀半ば~ 新銀山=( )19銀山など=開発 精錬技術革新

ポルトガル・中国商人→中国の生糸・絹織物を売り、メキシコ銀・日本銀を中国へ

1601年 徳川家康、朱印状による海外交易促進⇒( )20貿易

⇒┌17世紀半ば ホイアン、マニラ、プノンペン、アユタヤなどに日本町

└鹿皮=タイ、カンボジア、生糸=ヴェトナムを日本へ 日本からは銀・銅

フィリピン

1571年~┌( )21島など北部⇒スペインによる植民地化

└( )22港⇒中国と中南米をむすぶ中継貿易=アカプルコ貿易=で繁栄

4,オランダ東インド会社

1602年 連合( )23会社❖e設置→200年間で100万人がアジアへ

ポルトガル、イギリス、オランダ⇒交易支配権を争う→( )24の優位

┌ジャワ島( )25=現在のジャカルタ=を根拠地⇒ポルトガルを打破

└1623年[ ]26事件❖f→イギリスの勢力を駆逐

└マルク(モルッカ)諸島・( )27・スリランカをポルトガルから奪う

商館・要塞を建設→香辛料取引で優位に

❖e---複数のオランダ商社による。世界初の[ ]会社。イギリスは1600年、フランスは1604年の設立。

❖f---1623年、マルク諸島のアンボン=アンボイナで、イギリス商館の傭兵の日本人がオランダ商館をスパイしたこと  
の報復として、オランダがイギリス商館員多数を殺害した事件。

1652年 アフリカ南端 ( )28植民地→( )29人=オランダ語「農民」=オランダ系農業移民

→喜望峰~インド洋~スンダ海峡~バタヴィアへ至る新航路

┌( )30領有(1624~62) 熱蘭遮城❖gを拠点に→東シナ海交易の拠点化

└鎖国下の日本と交易=中国の絹・生糸⇒日本の銀・銅

❖g---Fort Zeelandia。1624年建設開始。のちに鄭政権の王城ともなった。現台南市の安平古堡。

5,東アジア世界の変容

16世紀後半~ 明に膨大な銀流入→生糸等商品生産拡大・物価高騰⇒貧富の差拡大・農村の窮乏

17世紀 ┌東北地方の( )31族の自立

└東南部沿海・台湾で( )32氏=1662~83など武装商業勢力の出現

1641年 オランダ商館を出島に移す=鎖国政策徹底(日本) 1661年遷界令(清)→東アジアの活況終息

17世紀末 蘭・英の競合→( )33価格の大暴落 ⇒大交易時代の終焉



パンダ・アチェの大モスク



マルク(モルッカ)諸島



朱印船



ゼーランディア城

- ・阮 ・鄭 ・銀 ・日本 ・台湾 ・大越 ・広南 ・女真 ・石見 ・胡椒 ・大西洋 ・朱印船 ・アチェ
- ・エルバ ・スンダ ・ケープ ・マニラ ・ポーア ・ルソン ・アユタヤ ・オランダ ・マタラム ・マラッカ
- ・メキシコ ・バンテン ・リスボン ・ユンカー ・東インド ・アカプルコ ・トゥングー ・バタヴィア ・ジョホール